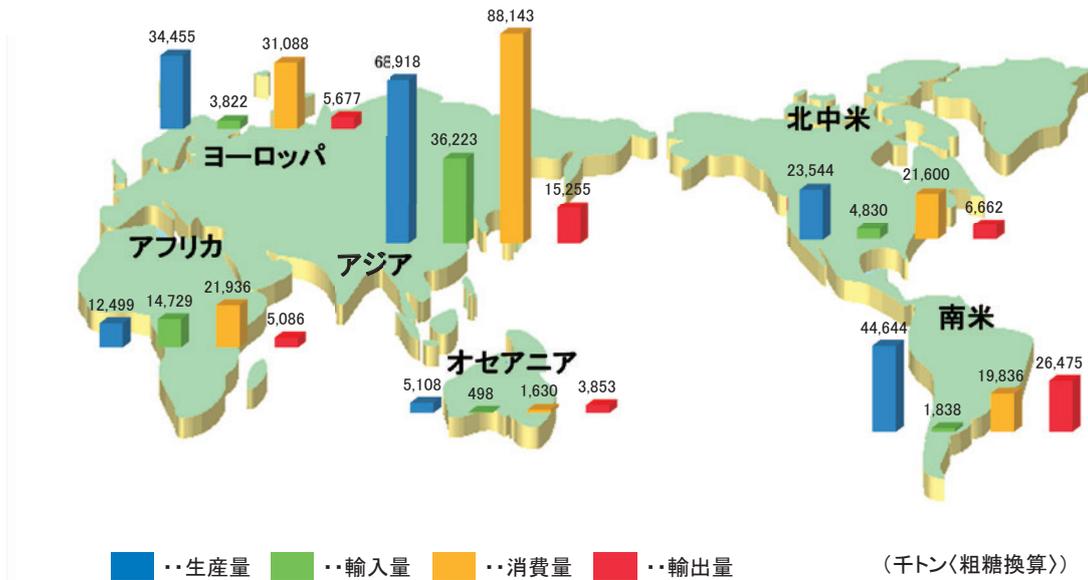


## 砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

### 1. 世界の砂糖需給 (2018年3月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2017/18年度予測値)



資料：英国の調査会社 Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」  
 注1：年度は2017年10月～翌9月。  
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン <粗糖換算>、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	35,477	109,012	27,349	109,390	32,516	29,932	27.4
1994/95	36,020	116,084	33,328	114,963	33,905	36,564	31.8
1999/2000	54,618	134,332	38,747	130,126	40,070	57,501	44.2
2004/05	65,620	141,016	46,976	144,649	50,021	58,942	40.7
2009/10	60,045	158,448	57,159	162,342	57,166	56,144	34.6
2013/14	74,249	181,470	58,464	175,770	59,085	79,327	45.1
2014/15	79,327	180,641	58,788	178,658	59,602	80,497	45.1
2015/16	80,497	174,151	66,355	180,187	69,169	71,646	39.8
2016/17	71,646	179,595	63,001	180,548	66,258	67,435	37.4
2017/18 (2017年12月予測)	67,855	191,402	61,799	184,236	63,662	73,158	39.7
2017/18 (2018年3月予測)	67,435	189,169	61,939	184,232	63,008	71,303	38.7

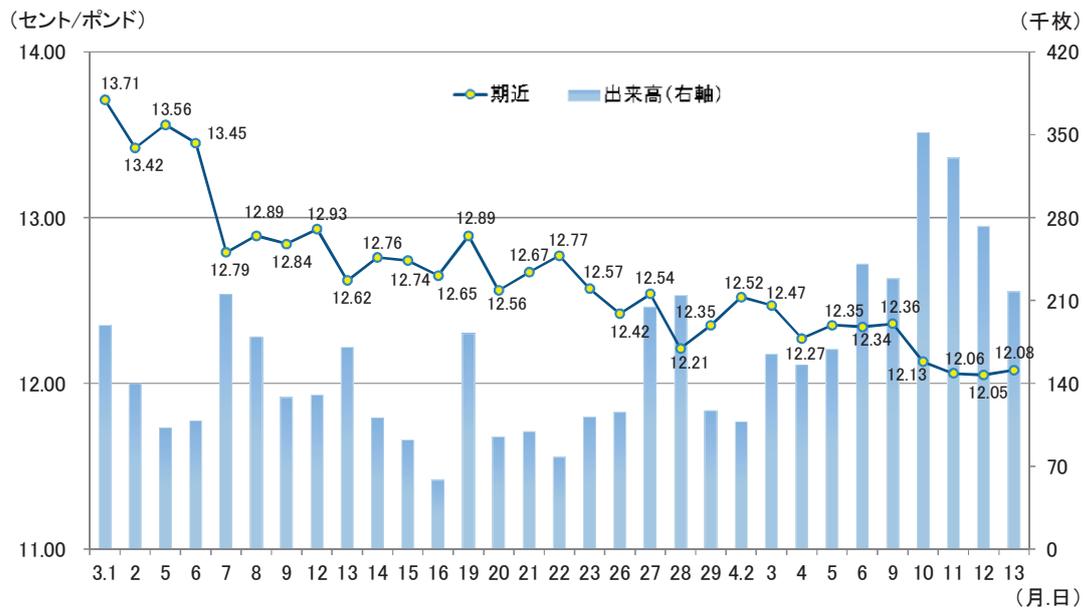
資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）である。  
 注4：期末在庫率は期末在庫量を消費量で除した割合である。

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖相場の動き (3/1 ~ 4/13)

～世界的な供給過剰予測などから約2年半ぶりの安値～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：期近5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（5月限）の2018年3月の推移を見ると、1日に1ポンド当たり13.71セント<sup>(注1)</sup>の値を付けて以降、弱含みで推移し7日はインド製糖協会（ISMA）が砂糖生産量見通しを上方修正したことを受け同12.79セントへ下落した。ブラジルでエタノール需要の高まりからサトウキビのエタノール仕向けを増やす動きが見られるとして12日には同12.93セントへ反発したが、13日はインドやタイなどの主要生産国での増産見通しから同12.62セントへ反落した。20日はインド政府が砂糖に対する輸出関税の撤廃を決めたことから供給過剰への懸念が広がり、2017年6月以来の安値となる同12.56セントまで下落した。その後、一時的に反発したが、再び下落に転じ、28日は同12.21セントと約2年半ぶりの安値を付けた。

4月に入ると、売られ過ぎとの見方から2日に同

12.52セントまで回復したが、世界的な供給過剰は否めず上昇要因が見当たらないとし、4日に同12.27セントへ値を下げた。その後は同12.30セント台でこう着状態が続いたが、10日はブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）<sup>(注2)</sup>が公表した3月までのエタノール生産量が想定ほど増えていなかったことから同12.13セントまで下落した。翌11日もインド政府における輸出補助金措置の可能性をめぐる憶測が広がり、同12.06セントとさらに下落した。13日は同12.08セントとなった。

(注1) 1セントは、1米ドルの100分の1。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年4月時点予測）<sup>（注）</sup>

本稿中の為替レートは2018年3月末日TTS相場の値であり、1米ドル=107円（107.24円）、1ユーロ=132円（132.02円）、1英ポンド=153円（152.84円）である。

（注）情報提供元が変更となり、算出方法が異なることから予測値が前月号と比べて大きく異なる場合がある。

#### ブラジル

##### 2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：856万ha（前年度比1.0%増）

生産量：6億4031万トン（同1.8%減）

###### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4147万トン（同0.5%減）

輸出量：3073万トン（同2.0%増）

#### 2017/18年度の見込み、砂糖生産量はほぼ横ばい、輸出量はわずかな増加

英国の調査会社LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2018年4月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は856万ヘクタール（前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれているものの、北東部の干ばつの影響などから生産量は6億4031万トン（同1.8%減）とわずかに減少すると見込まれている（表2）。砂糖生産量（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）は、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え製糖歩留まりの向上により、4147万トン（同0.5%減）と北東部の減産分をカバーし、ほぼ横ばいとなると見込まれている。砂糖輸出量は、世界的に輸入需要が弱まるとされているものの3073万トン（同2.0%増）とわずかな増加が見込まれている。現地報道によると、次のサトウキビ収穫期を前に世界的に砂糖価格が低水準に推移しているため、粗糖の輸出を控え、国内の食品製造企業向けの精製糖の生産および販売を増やして

いる企業もある。

UNICAが発表した2017/18砂糖年度（4月～翌3月）の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は多雨の影響から5億9631万トン（同1.8%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は3606万トン（同1.2%増）とわずかに増加した。製糖業者におけるエタノール生産量は2609万キロリットル（同1.7%増）、輸出量も含めたエタノールの販売量は2641万キロリットル（同1.7%増）と、ともにわずかに増加した。このうち、含水エタノール<sup>（注1）</sup>の国内販売量は、価格上昇にもかかわらず、1546万キロリットル（同7.9%増）とかなり増加した。これに関連して、政府は1月、2017年9月に開始した輸入エタノールに対する20%の関税<sup>（注2）</sup>について、撤廃する可能性を示唆した。この背景には、ブラジル国内でガソリン価格が上昇し、エタノール需要の高まりによりエタノール需給が逼迫<sup>（ひっばく）</sup>しつつあることがある。2017年のエタノール輸入量は182万キロリットル（前年比2.2倍）となり、現在の基準で統計を取り始めた2004年以来初めて輸出量を上回った。

## EUとのFTA交渉、進展なし

南米南部共同市場（メルコスール）とEUとの間で交渉が続く自由貿易協定（FTA）については、3月にアルゼンチンで開催された20カ国財務大臣・中央銀行総裁会議（G20）の機会に関係国間で協議や意見交換が行われたが、双方の立場に隔たりが大きく、新たな進展は見られなかった。一部報道によると、最終合意は2019年へ持ち越される公算が高まっている。EUでは、2017年9月の連邦議会選挙の結果によって政権の求心力が低下したドイツに代わり、交渉に消極的とされるフランスの存在感が高まっており、他方、南米ではブラジルが10月に大統領選挙を控えるなど、双方ともに当面は交渉を先送りせざるを得ない政治的な理由がある。

## UNICA、インドとパキスタンの輸出支援策に懸念

UNICAは、「インドとパキスタン両政府が実施する砂糖輸出に対する支援策が、世界的な砂糖価格の下落に拍車をかけている可能性がある」との懸念を

示し、政府や関係国に対し世界貿易機関（WTO）への提訴を含めた対応を要請していくことを示唆した。

（注1）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

（注2）政府は2017年8月23日、エタノール輸入に対し、年間60万キロリットル（四半期ごとに15万キロリットル）の無税の関税割当を設けるとともに、これを超過して輸入されるエタノールに対しては20%の関税を課すことを決定した。同措置は、国内のエタノール生産量の減少やトウモロコシの国際価格の下落などにより米国からのトウモロコシ由来のエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAや北東部の砂糖・エタノール製造企業などが、以前から政府へ実施を要請していたものである。同関税は、エタノール在庫量の低下に伴い2010年に適用停止して以来の再導入であり、2年間の実施に見直しが予定されていた。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

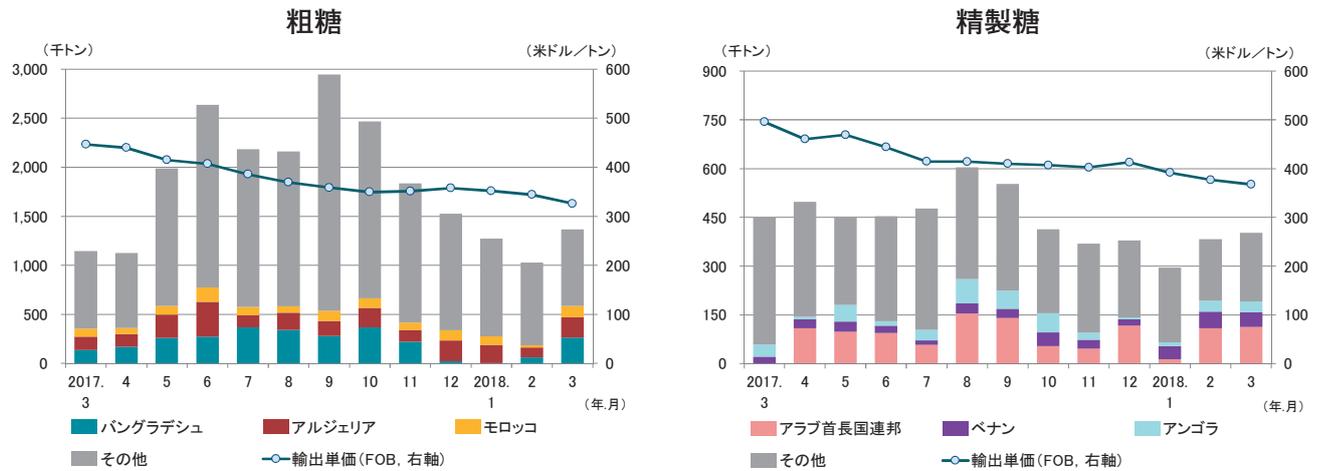
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,784	8,188	8,474	8,560	1.0	
サトウキビ生産量	632,127	666,824	651,841	640,313	▲ 1.8	
砂糖	生産量	38,147	36,472	41,670	41,470	▲ 0.5
	輸入量	1	1	1	1	▲ 7.5
	消費量	12,625	12,057	11,502	11,445	▲ 0.5
	輸出量	24,871	26,023	30,117	30,726	2.0
	期末在庫量	2,346	739	791	91	▲ 88.5
	期末在庫率	18.6	6.1	6.9	0.8	6.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## インド

### 2017/18年度 (10月～翌9月) の見通し

**【サトウキビ】**

収穫面積: 470万ha (前年度比9.8%増)  
生産量: 3億7191万トン (同21.2%増)

**【砂糖 (甘しゅ糖)】**

生産量: 3267万トン (同49.5%増)  
輸入量: 210万トン (同14.6%減)

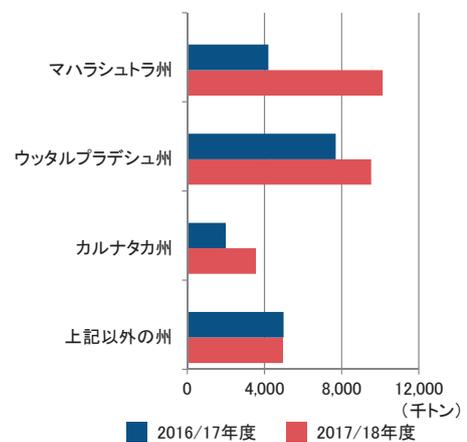
### 2017/18年度の見込み、砂糖生産量は大幅に増加、輸入量はかなり減少

2017/18砂糖年度 (10月～翌9月) のサトウキビ収穫面積は470万ヘクタール (前年度比9.8%増) とかなりの増加が見込まれ、生産量は3億7191万トン (同21.2%増) と大幅な増加が見込まれている (表3)。砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、3267万トン (同49.5%増) と3年ぶりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、生産量の増加に伴い210万トン (同14.6%減) とかなりの減少が見込まれている。現地関係者によると、2017/18年度の期末在庫量は、国内消費量の4カ月分に相当する850万トンになると見込んでいる。翌年度も砂糖の需給に大きな変動がない場合、在庫はさらに積み上がる可能性が高い。

インド製糖協会 (ISMA) によると、2017/18年度

上半期 (10月～翌3月) の砂糖生産量は、精製糖換算で2818万トン (前年同期比49.2%増) と大幅に増加した。このうち、マハラシュトラ州は1012万トン、ウッタルプラデシュ州は954万トン、カルナタカ州は356万トンといずれも前年同期を上回った (図3)。

図3 インドの地域別甘しゅ糖生産量 (10月～翌3月)



資料: ISMA

注: 精製糖換算。

## 政府、砂糖に対し50%の追加関税

政府は2月6日、砂糖の輸入増加による国内市場価格および国内生産への影響を緩和するため、砂糖に対して50%の追加関税を課した。国内では、サトウキビ取引価格が前年同期に比べ11%上昇する中で、安価な砂糖の輸入増加により製糖業者の業績が悪化していた。また、これはパキスタンからの輸入量を抑制するための措置とみられる。パキスタン政府は砂糖の国内供給量を調整するため2018年1月から輸出補助金の対象数量を50万トンから200万トンに引き上げており、現地関係者の間で輸入量を抑制するためには現行税率（50%）では不十分であるという声が高まっていた。

## 政府、200万トンの輸出枠を設定

政府は3月、砂糖に対する20%の輸出関税<sup>(注1)</sup>を撤廃するとともに、製糖業者に対し200万トンの最低輸出義務を課した。今回の措置は、砂糖の輸入増加で国内消費が飽和状態にある中、サトウキビの増産による砂糖の国内価格の下落と在庫の急増が重なり、製糖業者の業績がさらに悪化し、生産者への原料代の支払いが滞っていたことから、これらを解消する狙いがある。最低輸出義務の設定は、

2015年以来3年ぶりとなる。同時に、生産した砂糖を2018年9月までに輸出した製糖業者に対しては2021年までの間、その輸出量を上限に粗糖を無税で輸入できる措置も講じる。

現地報道によると、3月末時点においてマハラシュトラ州の製糖業者だけですでに62万トンが消化されたとみられるが、世界的な砂糖価格の低迷から輸出価格が生産コストを下回っており、「全量の消化は難しい」と懐疑的な見方をする声もある。このため、政府が輸出補助金を措置するのではないかと、という憶測が広がっている。しかし、米通商代表部（USTR）が3月14日、「インド政府の鉄鋼、医薬品、情報通信などに対する輸出促進政策<sup>(注2)</sup>は米国の労働者や製造業に損害を与えている」と主張し、WTOに提訴することを発表したことから、実際に措置されるかどうかは極めて不透明とみられる。

(注1) ①粗糖を輸入して6か月以内に再輸出する精製糖  
②2500トンのオーガニックシュガーを除いた砂糖一に対し2016年6月中旬以降適用された。

(注2) 砂糖に対する輸出補助金は、2015年9月をもって廃止されている。

表3 インドの砂糖需給の推移

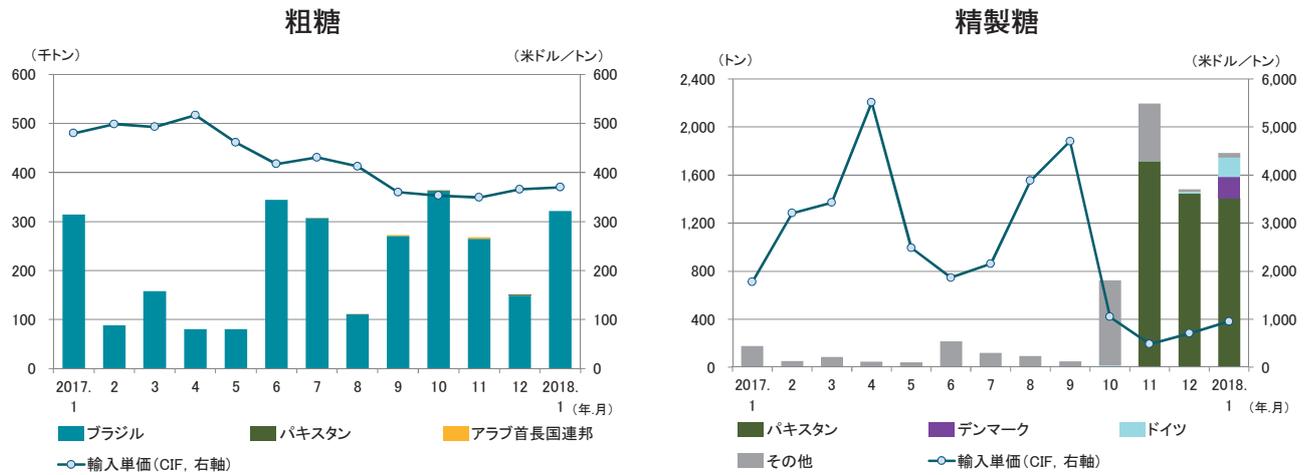
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,942	4,806	4,281	4,702	9.8	
サトウキビ生産量	378,969	356,871	306,940	371,911	21.2	
砂糖	生産量	30,529	27,091	21,848	32,671	49.5
	輸入量	1,509	2,146	2,458	2,100	▲ 14.6
	消費量	25,920	26,784	26,352	27,648	4.9
	輸出量	2,468	3,955	2,233	2,000	▲ 10.4
	期末在庫量	9,871	8,370	4,090	9,214	125.3
	期末在庫率	38.1	31.2	15.5	33.3	17.8 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：123万ha（前年度比4.5%増）

生産量：7678万トン（同4.2%増）

【てん菜】

収穫面積：19万ha（同10.7%増）

生産量：959万トン（同8.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1103万トン（同11.5%増）

輸入量：514万トン（同11.2%減）

2017/18年度の見込み、砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）においては、サトウキビについて、収穫面積は123万ヘクタール（前年度比4.5%増）、生産量は7678万トン（同4.2%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表4）。てん菜について、収穫面積は19万ヘクタール（同10.7%増）、生産量は959万トン（同8.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。地域別では、てん菜の主要生産地である内モンゴル自治区の増加が著しい。これらにより、砂糖生産量は1103万トン（同11.5%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖生産量が依然として消費量を下回ると見込まれる中、砂糖輸入量は砂糖に対する追加関税措置によ

り514万トン（同11.2%減）とかなりの減少が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）によると、2017/18砂糖年度上半期（10月～翌3月）の砂糖生産量は、精製糖換算で954万トン（前年同期比10.6%増）とかなり増加した。このうち、甘しゅ糖は839万トン（同10.5%増）、てん菜糖は115万トン（同12.0%増）と、ともにかなり増加している。中でも3月単月の増加が著しく、前年より早くてん菜の裁断期を終え、てん菜糖の生産がなかったにもかかわらず、前年同月比48.3%増の217万トンと直近3カ年で最も多い水準となった。

## 中国農業省、2017/18砂糖年度の需給見通しを公表

中国農業省は2月8日、砂糖を含む農産物の需給見通しを公表した。これによると、2017/18年度の砂糖生産量は、サトウキビおよびてん菜の栽培面積の拡大により、1035万トン（前年度比11.4%増）とかなり増加し、このうち、甘しゅ糖は915万トン（同11.0%増）、てん菜糖は120万トン（同14.3%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。

## 2月の砂糖輸入量、7年ぶりの低水準

政府は、2017年5月22日から3年間、関税割当（枠内関税率15%）の枠外で輸入される砂糖に

対し、反ダンピング関税を課している<sup>(注)</sup>。2018年2月の砂糖輸入量は、これに旧正月（春節）が重なり、単月の数量としては7年ぶりの低水準となった前月をさらに下回る2万トンとなった。

(注) 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に損害が生じまたはその恐れがあるとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率に45%の追加関税を課した。ただし、2年目は40%、3年目は35%と段階的に引き下げられる予定となっている。なお、追加関税について、開発途上の約190の国・地域（フィリピンやパキスタンなど以前から中国と関係の深い国も含む）については、一定の条件を満たせば除外される。

表4 中国の砂糖需給の推移

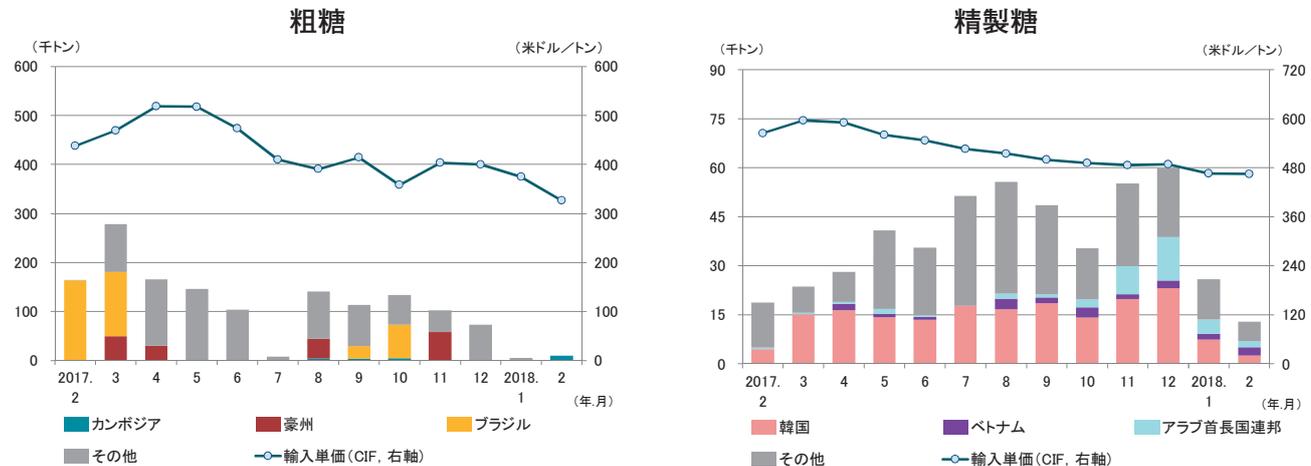
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,457	1,311	1,178	1,231	4.5	
サトウキビ生産量	85,037	74,950	73,690	76,780	4.2	
てん菜収穫面積	130	136	168	186	10.7	
てん菜生産量	6,416	6,880	8,820	9,590	8.7	
砂糖	生産量	11,412	9,405	9,890	11,028	11.5
	輸入量	6,759	7,910	5,785	5,136	▲ 11.2
	消費量	16,680	16,847	16,847	16,931	0.5
	輸出量	71	181	146	133	▲ 8.9
	期末在庫量	11,638	11,926	10,608	9,708	▲ 8.5
	期末在庫率	69.8	70.8	63.0	57.3	5.6 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## E U

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：172万ha（前年度比17.6%増）

生産量：1億3398万トン（同25.3%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：2134万トン（同21.5%増）

輸出量：413万トン（同2.7倍）

### 2017/18年度の見込み、砂糖生産量、輸出量はともに大幅に増加

生産割当廃止後の初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積は172万ヘクタール（前年度比17.6%増）、生産量は好天による単収の増加もあり1億3398万トン（同25.3%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表5）。これにより、砂糖生産量は2134万トン（同21.5%増）、輸出量は413万トン（同2.7倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

### 欧州委員会、2017/18砂糖年度の需給見通しを公表

欧州委員会は1月下旬、2017/18年度の砂糖の需給見通しを公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2058万トン（同22.2%増）と大幅に増加する一方、輸入量は186万トン（同38.9%減）と前年度の6割程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されることから、320万トン（同2.3倍）と大幅な増加が見込まれている。ただし、実際の輸出量は国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。欧州委員会によると、2017年10月～翌1月の輸出量は、エジプトやスリランカなど中東・アジア諸国向けを中心に129万トン（前年同期比3.9倍）と大幅に増加した。また、2017年12月の域内平均白糖卸売価格は、1トン当たり400ユーロ（5万2800円）

と前年同期を同79ユーロ（1万428円）下回った。

### 寒波の影響で播種作業が大幅に遅延

現地報道によると、てん菜の播種期に当たる3月に広範囲で寒波に見舞われ、平年より播種作業が大幅に遅れている。てん菜の主要生産国であるフランスでは、3月下旬時点の播種作業の進捗率が平年の50%をはるかに下回る7%弱の水準であるという。これにより、てん菜生産量が3%程度減産する見込みで、この状況は他のEU諸国でも同様であることから、2018/19年度の砂糖の需給予測に影響が出るとみられる。

### 英国政府、4月から「砂糖税」を開始

英国政府は、子どもの肥満対策として2016年3月に導入を発表した「砂糖税」について、当初の予定通り2018年4月6日から課税を始めた。飲料に含まれる糖類の量に応じて課税する仕組みで、100ミリリットル当たり5グラム以上8グラム未満の糖類を含む飲料には1リットル当たり18ペンス（注）（27.5円）、同8グラム以上の糖類を含む飲料には1リットル当たり24ペンス（36.7円）が課税される。課税対象となる飲料は清涼飲料水やエナジードリンクなどで、果実飲料は含まれない。現地報道によると、これによる税収は年間2億4000万英ポンド（367億2000万円）を見込み、学校のスポーツ関連施設への助成や子どもに朝食を提供する「朝食クラブ」の支援などに充てられる。

同じ日に課税を開始する予定だった隣国のアイル

ランドでは、政府が導入までの手続きを慎重に進めた結果、約1カ月遅れの5月1日から始まった。同国では、100ミリリットル当たり8グラム以上の糖類を含む飲料に対して1リットル当たり0.3ユー

ロ(39.6円)が課税される。

(注) 1ペンスは、1英ポンドの100分の1。

表5 EUの砂糖需給の推移

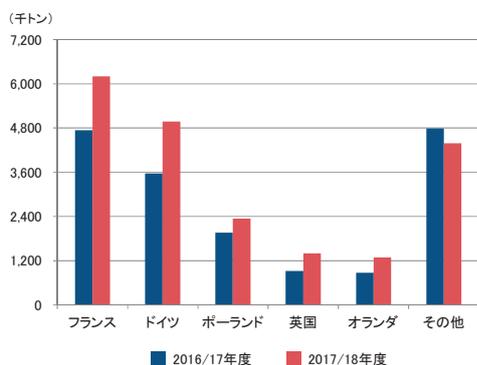
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,602	1,364	1,463	1,721	17.6	
てん菜生産量	129,154	94,986	106,913	133,975	25.3	
砂糖	生産量	19,362	14,937	17,570	21,340	21.5
	輸入量	3,378	3,651	3,115	1,739	▲ 44.2
	消費量	19,620	19,481	18,816	18,148	▲ 3.6
	輸出量	1,558	1,501	1,510	4,131	173.6
	期末在庫量	4,307	1,913	2,272	3,073	35.2
	期末在庫率	22.0	9.8	12.1	16.9	4.9 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合

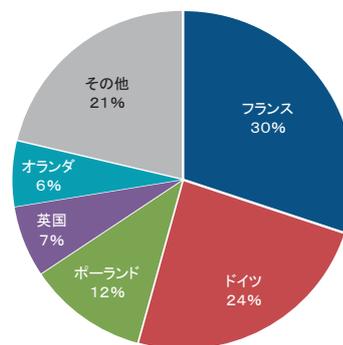


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2018年1月時点での予測値。

注3：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：生産割合は2017/18年度。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向（2018年4月時点予測）<sup>（注）</sup>

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200）の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。本稿中の為替レートは2018年3月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=84円（83.66円）、1タイ・バーツ=3.48円、1南アフリカ・ランド=10.48円である。

（注）情報提供元が変更となり、算出方法が異なることから予測値が前月号と比べて大きく異なる場合がある。

### 豪 州

#### 2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：37万ha（前年度比1.4%増）

生産量：3341万トン（同8.5%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：453万トン（同5.9%減）

輸出量：364万トン（同9.2%減）

#### 2017/18年度の見込み、サトウキビの減産に伴い砂糖生産量、輸出量ともに減少

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は37万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかな増加が見込まれているものの、2017年3月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3341万トン（同8.5%減）とかなりの減少が見込まれている（表6）。これに伴い、砂糖生産量は、453万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い364万トン（同9.2%減）とかなりの減少が見込まれている。

#### 3月上旬の洪水による被害見込み額は100万豪ドル程度

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が3月6日に公表した生産予測によると、2018/19年度は、

サトウキビの収穫面積が拡大し生産量の増加が予想されることから、砂糖生産量は483万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。輸出量は、386万トン（同0.5%増）にとどまると見込まれている。しかし、クイーンズランド（QLD）州北部では3月上旬、数日間降り続いた豪雨の影響で大規模な洪水が発生し、サトウキビの生産地帯は圃場が冠水し、サトウキビを工場に輸送するための鉄道網が寸断するなどの甚大な被害を受けた。現地報道によると、これによる被害額は100万豪ドル程度（8400万円程度）と見込まれている。被害が大きかったケアンズからタウンズビルにかけての地域では、サトウキビが倒伏したり、長時間水に浸かったりしたため今期は減産が予想される一方、近年干ばつ傾向で推移していたことから、今回の雨をむしろ前向きに捉え、乾いた土壌に十分な水を行き渡らせる効果があったとする声もある。

## TPP11協定の最終合意を受け、業界団体が声明を発表

環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（TPP11協定）は3月8日、チリで各国閣僚によって署名された。これに先立ち、QLD州砂糖公社（QSL）<sup>（注）</sup>は声明を発表し、同協定は、QLD州の粗糖輸出に対して全面的な変革をもたらす

までの効果はないものの、特に日本、カナダおよびメキシコ市場へのアクセスが拡大するとしている。

（注）QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、QSLが製糖企業を介して輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	378	382	368	373	1.4	
サトウキビ生産量	32,361	34,941	36,506	33,408	▲ 8.5	
砂糖	生産量	4,547	4,889	4,816	4,534	▲ 5.9
	輸入量	164	164	67	30	▲ 55.5
	消費量	1,187	1,196	1,172	1,125	▲ 4.0
	輸出量	3,412	4,384	4,004	3,635	▲ 9.2
	期末在庫量	1,795	1,267	974	779	▲ 20.1
	期末在庫率	151.2	105.9	83.1	69.2	14.0 ポイント減

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：169万ha（前年度比7.2%増）  
生産量：1億3026万トン（同40.1%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1516万トン（同42.2%増）  
輸出量：1157万トン（同56.5%増）

## 2017/18年度の見込み、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は他作物からの転作などにより169万ヘクタール（前年度比7.2%増）とかなりの増加が見込まれ、生産量は単収の増加もあり1億3026万トン（同40.1%増）と大幅な増加が見込まれている（表7）。砂糖生産量は、好天による製糖歩留まりの向上もあり1516万トン（同42.2%増）と大幅な増加が見込まれている。このため、輸出量は1157万トン（同56.5%増）と大幅な増加が見込まれている。

現地報道によると、2017年12月～翌4月上旬までの砂糖生産量は、すでに前年度の砂糖生産量を上回る1386万トン（前年同期比35.6%増）となった。

## 砂糖産業関連法の改正案、閣議で承認

現地情報によると、砂糖産業関連法の改正案は2017年12月上旬、閣議で承認された<sup>（注1）</sup>。この改正によって、砂糖の販売割当<sup>（注2）</sup>は一部を除いて廃止され、製糖企業は生産量に応じた在庫量の確保が新たに義務付けられることとなる。政府が設定している国内砂糖価格の上限は廃止される。なお、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3

の割合で分配する現行の収益分配方式は存続する。

政府は1月15日、国内砂糖価格については同日から2年間、現行のサトウキビ・砂糖法を適用しないことで、実質的な価格自由化への即時移行を発表した。また、国内供給向けの砂糖の販売割当に関する規定も併せて廃止された。サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）によると、価格自由化へ移行後、砂糖卸売価格は1キログラム当たり17～18バーツ（59～63円）に下落しており、国際砂糖価格も低水準にあることから、2018/19年度のサトウキビ取引価格は1トン当たり700バーツ（2436円）程度まで下落すると見込まれている。

関係者によると、改正後の制度の完全施行は、2018/19年度まで持ち越される可能性もある。現地報道によると、一部のサトウキビ生産者組合が、

改正案におけるサトウキビ副産物の定義などに異議を唱えており、代替案を国民立法議会に提出する準備を進めているという。

（注1）タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内砂糖価格の設定が間接的な輸出補助金に当たりWTO協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、OCSBがタイ政府に改革草案を提出したものの、政府は閣議において内容をよく吟味する必要があると判断し、OCSBに対し公聴会を経るよう求めた。その後、OCSBは公聴会を実施した上で所要の見直しを行い、再度改革案を閣議へ提出、2017年12月上旬に承認された。

（注2）タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

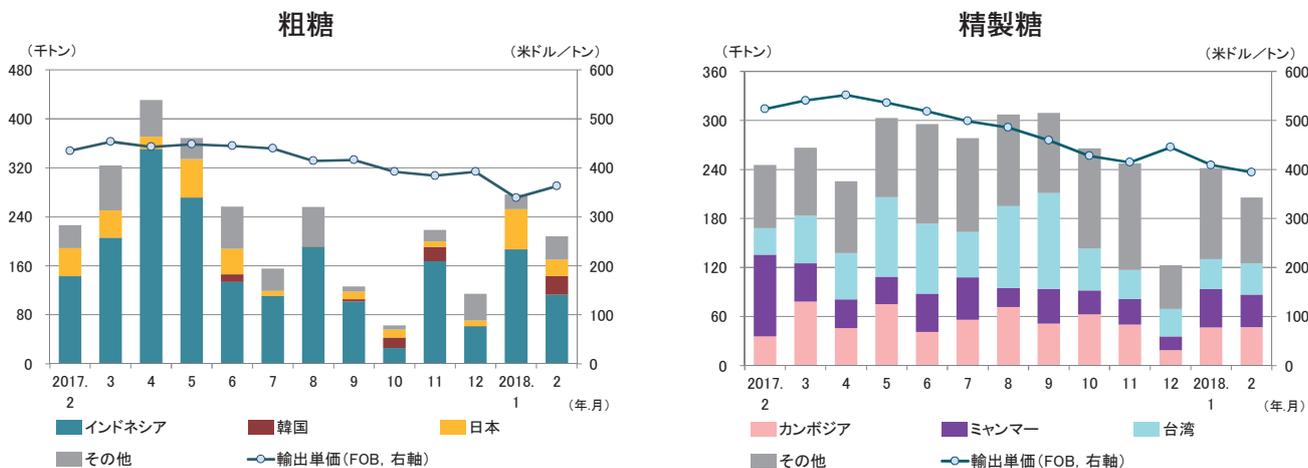
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,535	1,644	1,578	1,692	7.2	
サトウキビ生産量	105,959	94,047	92,951	130,256	40.1	
砂糖	生産量	12,036	10,402	10,657	15,157	42.2
	輸入量	0	1	0	1	558.4
	消費量	3,262	3,272	3,283	3,294	0.3
	輸出量	8,186	7,932	7,393	11,567	56.5
	期末在庫量	4,771	3,970	3,951	4,247	7.5
	期末在庫率	146.3	121.3	120.3	128.9	8.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 南アフリカ

### 2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：28万ha（前年度比10.0%増）

生産量：1739万トン（同15.3%増）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：215万トン（同25.4%増）

輸出量：79万トン（同3.5倍）

### 2017/18年度の見込み、砂糖生産量、輸出量ともに大幅な増加

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）は、サトウキビ収穫面積は28万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量は1739万トン（同15.3%増）と深刻な干ばつの影響により大きく落ち込んだ前年度をかなり上回る生産が見込まれている（表8）。このため、砂糖生産量は215万トン（同25.4%増）、輸出量は79万トン（同3.5倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

### 政府、4月1日から飲料メーカーと輸入業者に課税

政府は2018年4月1日、飲料メーカーと輸入業

者に「砂糖税」を課す新たな制度を導入した。同制度は、100ミリリットルあたりに含まれる糖類が4グラムを超える飲料を製造または輸入する業者に対し糖類1グラム当たり2.1セント<sup>（注）</sup>（0.2円）を課税する仕組みである。政府は、肥満者数や糖尿病患者数の増加が社会保障制度などに影響を及ぼすことを踏まえ、企業の税負担を増やすことで事業戦略の転換を促し、国民に対し健康増進の働きかけを進めたいとしている。

（注）1セントは、1南アフリカ・ランドの100分の1。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	273	245	250	275	10.0	
サトウキビ生産量	17,756	14,861	15,075	17,388	15.3	
砂糖	生産量	2,288	1,772	1,712	2,148	25.4
	輸入量	475	631	1,137	1,135	▲ 0.2
	消費量	2,111	2,353	2,386	2,418	1.3
	輸出量	795	292	225	786	249.0
	期末在庫量	591	349	586	665	13.3
	期末在庫率	28.0	14.8	24.6	27.5	2.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。